



復活徹夜祭 (マタイ 28:1-10)

あなたは 2020 年のもう一人のマリア

主の復活おめでとうございます。ここには実は誰もいません。まるでそれは、イエスが復活した瞬間のようです。もしイエスが復活して墓から出られたのであれば、今宵のように、誰もいなかったのでしょうか。私はここから、今年の復活徹夜祭の説教を始めたいと思います。

今年の小教区黙想会で、ベルゴリオ枢機卿が教皇フランシスコとして選出される直前に、カリタスの黙想会で語った言葉を思い出しました。彼はカリタスの黙想会参加者に「(問題は)イエスを聖具室に縛りつけていること」だと語り、イエスが戸口に立って呼びかけるヨハネの黙示録の一節を引用して、この話はイエスが中に入れてくれと戸を叩いている話ではなく、内側に閉じ込められているイエスが外に出してくれと言っている話であると思うようになったと述べたのでした(黙示録 30・20)。

まさに、今年の復活徹夜祭はその思いでこの場にいます。私は、イエスを聖櫃に縛り付けるような説教をしてはいけません。イエスが外に出て、大胆に語るような説教をしなければならないのです。その助けになればと思い、一つの思い出話を紹介します。

私は、大神学生時代にあっと驚く神父様に出会いました。その神父様は私と、私の先輩を外に連れ出して、初めて見る物、初めて聞くこと、初めて味わうものを経験させてくださいました。これは宇都宮で本当にあった出来事です。

最初は最高級ランクのステーキをおごってもらいました。そのあと生まれて初めてスナックに連れて行ってもらい、お店の人と歌を歌いました。見るもの聞くものすべてが、あっと驚くものでした。

しかしその神父様自身はそのすべてにまったく流されることなく、連れて行ってくれる前も連れて行ってくれた後も、まったく変わらない神父様でした。今日の福音朗読で例えるなら、番兵に過ぎなかった私は見るもの聞くものすべてに恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになったのでした。

神父様は圧倒的なお姿で教えてくださったのです。「恐れることはない(中略)。あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ(中略)。さあ、出かけて行って弟子たちに告げなさい。」復活したイエス・キリストを知った人は、何にも縛られることなく、まったく自由にキリストを告げ知らせるのである。私はそのことを出会った神父様から教わったのです。

今や、イエスは何にも縛られず、復活してすべての時間、すべての場所、すべての国に福音を告げ知らせます。ミサが中止され、自分の殻に閉じこもっている場合ではありません。あなたも私も、復活したキリストを自分の殻に閉じ込めることなく、「私を出して、告げ知らせに行ってくれ」と叫んでいる復活したキリストのお手伝いをしましょう。このメッセージを聞いたあなたは、2020年にイエスを墓に訪ねたマグダラのマリアともう一人のマリアなのです。